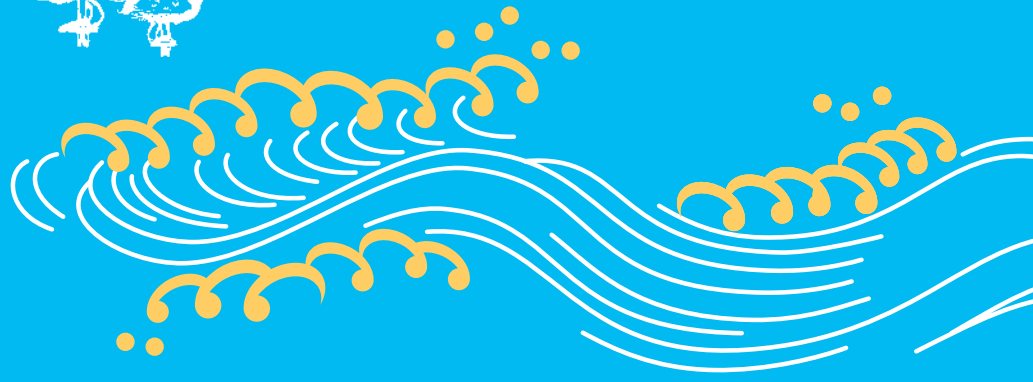


住んで来た元氣島



上島町
元氣町計画





上島町を元気島に！

ここにお届けするのは、「上島町総合計画 上島町元気アップ計画」のダイジェスト版です。

上島町は、4町村が平成16年に合併して誕生した新しい町です。この計画は、新しい町が全町一丸となって新しいまちづくりに取り組むための指針となるものです。

上島町は人口一万人弱の小さな自治体です。全国的に財政状況が逼迫する厳しい環境の中、町民が元気で安心して暮らせる町になるためには、地方分権改革を踏まえ、新しい発想に基づいた独自の地域経営に取り組んでいく必要があります。その方向と手立てを示したものがこの「上島町元気アップ計画」に他なりません。

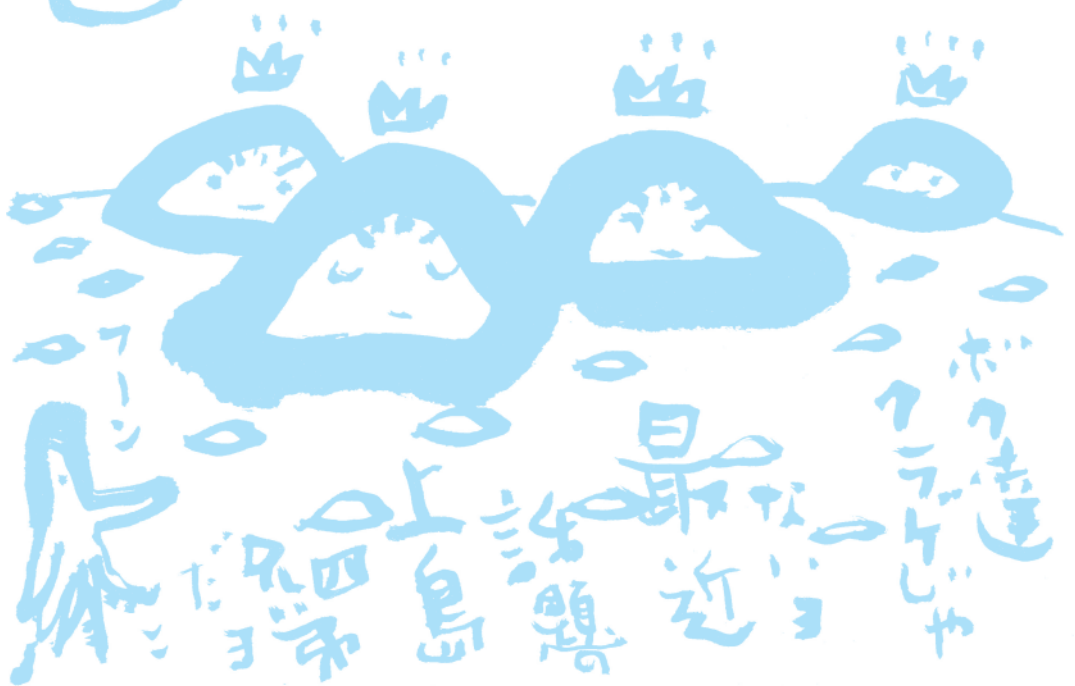
この計画には、上島町の「元気」を掘り起こすためのエンジンともいえる「シンボルプロジェクト」を掲げてあります。このエンジンは、まちづくりの主人公である町民の皆さん一人ひとりの力を結集することで、動かすことができます。

上島町の元気アップに向けて、町民の皆さんの力が十分に発揮できるようなくみをつくるために、行政は全力を挙げて邁進いたします。

町民と行政が知恵と力を出して協働し、上島のまちづくりのために一丸となって取り組み、人も、自然も、産業も元気な、ふるさと・上島町を実現しようではありませんか。

平成19年3月

上島町長 上村 俊之



上島ものがたり

上島町の将来についてみんなで考え、
上島町を元気にする力をみんなで発揮しあうために、
計画に盛り込まれた考え方や内容を会話体で
表現しました。

魅力があれば、島は生き残れる

朝の夫婦の会話 夫は役場の職員らしい

妻 合併して上島町になったけど、あまり変わりはえしないわね。

夫 いや、変わったよ。前は5分で行けた役場にいまは船に乗るから、早起きしなくちゃならないし、夜は残業もできない。

妻 早起きして、集中的にテキパキ仕事をこなす訓練ができて、よかつたじゃないの。



学校の統廃合も避けて通れない

夫 日本中が少子化で、上島町も子どもが減ってるから、いずれは学校も統廃合が必要になりそうだよ。

妻 隣の奥さんは、小さい規模だと部活もできないうし、競争もなくて学力低下が心配だから、早く統合してって言うてたわ。

夫 でも、学校がなくなることは、地域住民の反対は強いからね。

妻 子どもをどんな環境で学ばせたいかを考えれば、学校をどうすべきか、結論は出ると思っただけど。

夫 それはそうだけど、その話し合いが意外に難しい。

住民と行政のボタンの掛け違いも

妻 行政は、重要な問題でも、知らないうちにあるわ。

夫 広報で知らせたり、話し合いも持つてるよ。ただ、町民はなかなか話し合いに出てきてくれないんだよ。

妻 町民が出てくるよう、もっと工夫をするのが役場の仕事じゃないの。

散歩から帰ってきたおじいちゃん、国が何とかしてくれるだろうと思っっているらしいが…

夫 今も話してただけで、合併しても、どうやって食っていくのか、問題山積なんですよ。

祖父 ここは、離島なんだから、国が何とかしてくれるだろ。

夫 地方分権になったから、これからは自分のまちのことは自分で考えろってことで、今までみたいな支援は期待できないですよ。

上島町をひとつの会社と考えてみたら…

妻 上島町を八千人の社員がいる会社だと考えたらどう？ 今は、どの会社も生き残りがかかっているように、この町も生き残りがかかっている。みんながやる気になって魅力的な経営をすれば、よそからも人が来るんじゃない？

夫 みんながやる気になって、未来を豊かにする方向に力が出せるかってことだね。

妻 未来に向けて力を発揮できる「元氣島・上島」になるよう、役場がリーダーシップをとるのよ。

夫 そこは町民との二人三脚だよ。両方しっかりしないと、転んじゃうよ。

妻 何かが始まりそうであれいわ。おじいちゃんの出番もあるから身体を鍛えておいてね。

祖父 そうだね。おれも、上島株式会社の一員として、もう、ひと頑張りするかなあ。

「交流」が島を活性化する

みんなで自由に意見交換をする「わいわい懇」。今日のテーマは産業の振興

職員 これからは「年金の島」では生き残れません。そこで、産業振興が今日のテーマです。

町民 3年先まで受注があるうちゅうし、造船業は大丈夫だろ。

職員 造船業は町の基幹産業のひとつですから、今後支援策を講じていく必要がありますね。

少量の農産物でも販売できるという

町民 俺んとは、俺しか農業しないから家の前の野菜づくりだけで精いっぱいだよ。

職員 農業の担い手不足は深刻です。隣の人に田んぼを預けて栽培してもらったり、集落営農や会社に入ってきてもらうなど、いろんな試みが必要ですね。

町民 俺の島じゃ物産センターがあつて、生産したものを加工したり、販売してくれる仕組みがあるから、何とか柑橘を栽培できてるよ。

町民 小規模でも販売ができる通販とか直売所がもつとあるといいな。

町民 うちのばあさんは野菜をつくってるが、無人直売所でもあれば、励みになるだろうな。



島をフルーツアイランドにしたい

町民 島がフルーツアイランドになったら、観光客が来るだろ。きれいな海と緑の島、その環境を売りにして人を呼び寄せればモノも売れる。

職員 地域らしさを大事にして、他との違いがはつきり出るモノをつくっている先進地もありますよ。小さくてもいいから住民のビジネスをどんどん育てていくことが上島の将来を切り開くと思いますよ。

地元で獲れたものを地元で消費したい

町民 漁業もなかなか厳しくなってるそうだな。

町民 魚価は下がってるし、輸入ものも増える。

職員 いま「地産地消」とか「地産地商」といって、地元の産品を地元で消費したり販売する動きが全国的に進められているけれど、上島町の魚もそうなるといいですね。

町民 おさかなランドとか、おさかなセンターとか売る施設をつくったらどうかな。

交流ビジネスを展開し、町を元気にしよう

職員 実は、消費者と直接触れ合ってモノを売るような商売を「交流ビジネス」といってます。いま上島町では、町民の多種多様な交流ビジネスを支援しようとしているんです。

町民 それは、観光振興につながるのかな。

職員 もちろんです。消費者が町民から来訪者に広がれば、それだけビジネスも広がる。上島町は、これから観光で生きていく必要があると思います。定住人口の減少を補なうのは、まず交流人口を増やすことですからね。

町民 うちのかあちゃんは、地元の素材を使った郷土料理の店を出したいなんていつているけど、これも交流ビジネスなんだな。

職員 いろんな町で交流ビジネスが生まれています。これからは、みんなでこのまちに

人を呼ぶことを、「ツーリズム」と呼ぼうと
しています。商工観光だけでなく、農業や
漁業も大事にし、直売施設を増やし、地域
の歴史や文化を紹介するボランティアを育
てるんです。

漁業 だから、ツーリズム協会をつくるわけ
だね。

職員 単なる観光宣伝ではない、多様な交流
ビジネスや人材を育てることをしたいと思
っているんです。

この島に、子どもは残るか

同級生の会話。まずは橋の問題

町民 この前の休みに、全線開通した「しま
なみ海道」を家族でドライブしてきたぞ。

課長 おお、そうか。橋は離島の生命線だか
らな。弓削大橋ができて生活が一変したっ
て若い者も言ってたよ。町も4つの町村が
合併したんだから、島と島に橋を架けて町
全体が一体になろうと、いま県や国にしき
りに要望しているんだ。

町民 そりゃいいな。弓削から魚島まで橋が
架かったら、楽しいドライブができる。

課長 魚島まで橋を架ける計画はさすがに
ないよ。そもそも国と地方で800兆円と
いう借金を抱えているんだからな。

愛媛県と広島県。上島町はどちらに向かう？

町民 この辺の大動脈はしまなみ海道だか
ら、次はしまなみ海道につながる橋が一番
重要だ。

課長 あれは広島県だろ。上島町はまず自
分の町の交通をしっかりとするのが筋だ。

町民 町民は自分の生活が一番だ。おれは仕
事で因島に毎日通い、女房は因島の病院に
行ってる。広島県と橋でつながるのが第一
だろうが。

課長 しかし、上島町は愛媛県だから愛媛県
のまちとして発展するほかないよ。

町民 しばらくしたら、次の合併があると聞
いたぞ。上島町みたいな小さい町は、生き
残るのに都合がいい合併を考えなくちゃだ
めだ。

課長 どこと合併しようが、不利にならない
力をつけとくことが肝心だ。つまり、よそ
から「一緒になってくれ」っていわれるくら
いでないと。

子どもたちの元気な声が聞こえる町

町民 気候は温暖だし、人の気持ちはあつた
かいし、実にいい町だと思ってるが、それ
も人口は減ってるようだな。

課長 それくらいいいなら、お前んとこの
子どもも島を出て行かなかつたらう。

町民 町は財政がかなり厳しいんか。

課長 財政状況は今後ますます厳しくなる
な。これからは、財政状況を町民に示して、



何にお金を使うのがいいか選択してもら
わなくちゃいけない。

町民 そうか、生き残りのための選択の時代
になったのか。

課長 この町に住みたい、この町で結婚した
い、子どもを生みたいという町にしないで
は、どんどん寂しい町になってしまふ。

町民 うーん、確かに近頃は、子どもの声を
聞かんもんな。これは危機だな。

課長 だから、何とか元気な島にしよう、と
初めての総合計画を作ったところだ。

町民 なるほど。絵に描いた餅にならんよう
これからはその計画を頑張って実践してい
かなくちゃ。

総合計画とは…。

上島町の特性と課題を分析し、10年後の将来像を掲げ、それを実現するための基本方針と施策を定めたもので、計画期間10年の「基本構想」、前期、後期各5年の「基本計画」で構成されます。10年後の想定人口を7,000人とします。

まちづくりの基本理念

島の活力の源泉は、町民の元気にあります。誰もが暮らしの源泉である「元気」を高め、「住んでよかった」と信頼を寄せることができます。「元気島・上島町」となることを基本理念として掲げます。

めざすべき姿

元気島・上島町

上島町は、人が元気。
上島町は、自然が元気。
上島町は、業^{なり}わいが元気。

キャッチフレーズ

住んでよし 来てよし 元気島

上島町の現状と課題

地勢・気候・交通

上島町は複数の島々で構成され、陸地面積は約30km²です。瀬戸内海特有の温暖・多照寡雨で、夏は涼しく冬は暖かい、過ごしやすい気候です。

主な交通手段が海上交通に限られている中、町民の要望が多い架橋については、将来の生活圈や広域行政の動向を見定めながら、的確に推進していく必要があります。

人口・人口構成

人口は8,098人(平成17年国勢調査)で、平成12年と比較すると507人、約6%の減少です。

子ども(14歳未満)が総人口の約9%、高齢者(65歳以上)が約34%と、深刻な少子・高齢化が進んでいます。

安心して子育てができ、高齢者が元気に長寿を楽しめるようなまちづくりが求められています。

産業

農業は柑橘栽培が中心です。漁業は定置網のほか一本釣りや刺網等もあり、多様です。近年は、海苔やヒラメ・タイ等の養殖も増えています。工業は造船業が主力です。商業は小さな商圏ゆえに、縮小を余儀なくされています。

島の生き残りのためには、既存産業のパワーアップをはかるとともに、島々に人を惹きつける交流産業を振興していくことが必須の課題です。



上島町がめ

町政運営の基本姿勢

一律で画一的な発想から脱し、
地域の個性を尊重する

一律で画一的な施策を実施することによる無理や無駄を排除することを心がけます。

地域の特性を見極め、それぞれに適した施策を実施し、地域が持つ良さが十分に発揮されるような、持続的なまちづくりを進めます。

複数の選択肢を用意し、
効率的で効果の上がる施策を選択する

事業の計画や実施に当たっては、複数の代替案を検討し、費用対効果を考え、どの事業への取り組みが最適かを十分検証したうえで実施します。

また、できることからともかく着手していくという、実践的かつ現実的な対応に努めます。

時代の変化に柔軟に対応し、
果断に判断できる能力を磨く

これからの自治体運営、地域経営においては、
「絶えず、貴重な血税を使っている」という自覚を持ち、短期的な利害に振り回されず、将来の状況に対する適切な見通しと柔軟さを持って対応します。

また、一度決定され計画に載った事業であっても、状況の変化によっては大胆に変更したり、中止をするなど、必要な場合にはそれまでのいきさつにとらわれず勇気ある決断を行います。

教育環境の充実

町には小学校5校、中学校4校、高等学校2校、高等専門学校1校があります。児童生徒数が減少する中で、子どもたちにとって魅力ある、独自の学校づくりが求められています。

また、弓削高校は生徒数を確保して存続をはかり、弓削商船高等専門学校は、地域との交流・連携を強化していく必要があります。

自然資源の保全

島の財産は、何といても海です。海岸線や多島美に代表される素晴らしい自然ですが、近年、自然海岸の減少、ゴミの漂着と散乱、山野の荒廃等で、本来の魅力が損なわれています。

「きれいな海」づくりに端を発した、自然資源の保全に町を挙げて取り組む必要があります。

地域内交流の促進

合併前は各島間の交流の必要性があまりなかったかもしれませんが、ひとつの自治体となった合併後は、町内の地域資源と町民の力を総結集して地域経営を行っていくことが必要です。

各島の歴史、文化、人材を互いに認め合い、交流を深め、触れ合いを通して、新しいまちづくりを進めることが求められています。

行財政改革

本町の財政は合併推進のための特例措置もあり、一時期は膨張しますが、早晚厳しい状況に陥ることは明白です。

町の行財政運営においては、「あれも、これも」という発想ではなく、地域経営の視点から「あれか、これか」を比較検討し、厳選した事業を実施するとともに、あらゆる場面において無駄や非効率を排除し、創意工夫をすることが求められます。



ルプロジェクト

元気島シンボルプロジェクトで、未来への突破口を開きます。

「元気島シンボルプロジェクト」とは、上島町を元気にするために、上島町ならではの特色のある、これからの島づくりを象徴するプロジェクトです。これらのプロジェクトは、新しい島づくりを展開していくため、ハードではなくソフトを重視して、まちづくりの突破口となる事業として位置づけるものです。元気島プロジェクトの内容は、現時点の内容のまま、いつまでも固定されるわけではなく、今後の議論と実践の中で、より豊かに、さらに多彩に改良されることが期待されています。



元気島さくら祭り (全町イベント)

旧町村の結束と協力をはかり、上島町としての一体感を高め、上島町に住む喜びが湧き立つような、新しい全町的なイベントを開催します。

海、健康づくり、音楽、桜等をテーマにした全町を挙げて取り組めるイベントを創り出し、実践の中でどんどん改良していきます。

桜まつり、生名マラソンをはじめ既存イベントが蓄積してきたノウハウを十分に活用し、これらのイベントとの組み合わせを工夫しながら、全町民が楽しめ、訪れた人たちも元気が湧いてくるイベントとして大きく育てていきます。

元気島百人委員会



行政に対して、また全町民に向けて、住民の立場から率直かつ魅力的な提案を行う仕組みとして、各界各層の住民による「元気島百人委員会」(百人は多くの人が参加することを表す象徴的な数字)を結成します。

また、委員会以外にも、誰でも参加できる「わいわい憩」スタイルの会合を開催します。

このように通常の審議会等とは異なる、開かれた組織や活動スタイルを心がけ、地域同士、島間の意見や情報を交換し、住民の自治・自立への成長の場として位置づけます。

委員会では、小さくても良いから、身近で考えやすいテーマを取り上げて議論し、具体的な提案にまとめます。委員会が出た意見や提案は、可能な限り町政に反映させます。

元気島シンボ

株式会社「元気島」

上島らしい魅力を持った特産品の開発・製造・販売、公共的交通機関や各種公共的施設の管理運営（経営）など、公共的な役割を担う第3セクターとして、既存の第3セクターの改良等により「株式会社元気島」（仮称）の設立を目指します。

全国各地の第3セクターの成功例や失敗例を参考としつつ、公共的な仕事を効率的に担当できるノウハウの蓄積と、それを担う中核的人材の確保を重視し、上島らしい組織として育てていきます。



上島ツーリズム協会

全町を挙げてツーリズム振興を打ち出すシンボリックな組織として、「上島ツーリズム協会」の発足をはかります。

ツーリズムの振興とは、従来の観光振興に加えて、各種交流活動の活性化、交流ビジネスの創出と育成、Uイターンをはじめ移住受け入れ体制の整備等を意味します。

協会は、各種交流事業をはじめ、観光関連施設の管理運営、観光振興に伴う各種事業（広報宣伝、誘客、人材育成等）を担当します。また、Uイターン事業（定住希望者への就職支援、住宅斡旋等）の事務局も担当します。



住みたい人誘致（定住促進）

上島町は、この町で子どもを生みたい、この町で子育てをしたい、そしてこの町の産業の活性化に貢献したいという人たちを受け入れるための総合的な体制をつくりたい。

上島町の存在とその魅力を全国に強くアピールするため、ホームページや広報を改良充実し、ブログをはじめ各種の情報媒体を通して、「住みたい人誘致の島・上島町」をPRし、口コミ等で広く話題となる仕組みを工夫します。

定住への第一歩は、島への観光、町民との交流であるため、交流事業と交流施設の充実をはかります。

住居の確保のために、公共的施設を含む空き家の活用、空き家バンク制度を設立するとともに、新規定住者の「下ズ」に合った住宅整備を進めます。

仕事の確保のためには、町内外の既存のインターン制度の活用、第3セクターの見直し改善による雇用の場の創出、観光農漁業の推進などをはかります。



期基本計画施策一覽

第1 島人は健康人

1. 保健・医療

1 保健・医療の充実

健康づくりの支援
保健活動の充実
医療体制の充実
救急医療体制の充実

2. 福祉

1 高齢者福祉

触れ合いの充実
介護保険制度の充実
高齢者の住環境の整備
特別養護老人ホームの充実

2 障害者福祉

障害者の就業支援
施設のバリアフリー化

3. 子育て環境

1 子育て支援の仕組み

子育て支援事業の推進
子育て支援ネットワークの構築

2 保育システムの拡充

保育サービスの拡充
保育所の改善
全町的な保育計画の作成

4. 食育の推進

1 食育で健康人

食育の推進

第2 島人は産業人

1. 農林漁業の振興

1 農業の振興

農業就業者の育成・支援
荒廃農地の有効活用
計画的な基盤整備
農業の高度化
観光農業の振興
上島町農業振興計画の作成

2 林業の振興

環境保全型林業の振興
保安林の機能維持
森林教育の推進

3 漁業の振興

漁場の整備
流通システムの改善
水産加工業の振興
漁港の整備
担い手の確保

2. 商工業の振興

1 造船業の振興

造船振興計画に基づく支援
雇用の拡大

2 小規模ビジネスの振興

既存商業の振興
新規ビジネスの起業支援
株式会社「元気島」

第3 島人は交流人

1. 海上交通網の整備

1 海上交通の改良

海上交通懇談会の開催
フェリー便等の改良
バス交通の改良

2 港湾施設の改善

港湾の改修
瀬戸内の中継基地

2. 道路網・架橋

1 架橋の推進

上島架橋の整備促進
しまなみ海道との連携

2 道路の改良

県道の2車線化
町道の整備

3. 情報通信基盤の整備

1 情報通信基盤の整備

ケーブルテレビの普及

2 電子自治体の構築

高度情報化の推進
情報サービスの効率化
町民のIT能力の向上

4. 移住の促進

1 情報発信の拡充

ホームページの改良
プロモーション映像の制作

2 受け入れ住宅の整備

空き家リニューアル
宅地等の斡旋
町民の永住対策

5. ツーリズムの振興

1 ツーリズムの振興

上島ツーリズム戦略の立案
情報サービスの充実
交流イベントの開発

2 交流拠点の整備

フルーツアイランドの開設
海の駅の整備
交流施設の充実
上島風景街道の整備

3 振興体制の整備

元気島ツーリズム協会の設立
来訪者の受け入れ体制の整備
交流人の育成制度



上島町総合計画・前

第4 島人は環境人

1. 景観の保全と創造
優れた景観の形成
集落景観の保全
公共施設・空間の整備

2. 景観づくりの体制整備
景観計画の策定

2. 安全な地域社会の構築
1. 消防・救急機能の拡充強化
消防庁舎の建設
消防・救急機能の強化
消防体制の広域化

2. 防災・防犯対策
地域防災計画の策定
防災機能の強化
急傾斜地崩壊対策
防災行政・消防無線の機能向上
防災意識の啓発
防犯体制の強化

3. 資源循環社会の構築
1. 元気島ゴミニティの構築
リサイクルの普及啓発
リサイクル教育の推進
リサイクル活動の支援

2. ゴミ処理システムの構築
廃棄物実態調査の実施
廃棄物処理計画の作成
廃棄物処理施設の建設・適正管理



4. 上下水道
1. 上下水道
上下水道維持管理の改良

2. 下水道
公共下水道・合併浄化槽の整備
集落排水・コミプラの充実

5. 公営住宅の整備
1. 公営住宅の整備
公営住宅建替え
公営住宅管理システムの改革

第5 島人は知恵人

1. 学校教育の充実
1. 教育体制づくり
計画的な教育体制づくり
児童・生徒の確保
学校安全対策
学校給食の充実
教職員住宅の整備

2. 学校施設の整備
学校施設整備計画
耐震補強

3. 高校及び高専への対応
弓削高校の存続対策
弓削商船高専の
地域共同センターの活用

2. 青少年の健全育成
1. 青少年健全育成
相談窓口の開設
社会参加の仕組み

2. スポーツ青少年の育成
スポーツ青少年団の支援
スポーツクラブの支援

3. 生涯学習の充実
1. 生涯学習の推進
生涯現役教育の推進
生涯学習講座の充実
ふるさと教育の推進
奨学金制度の充実

2. 家庭・地域の教育力
家庭における共有
地域における共有

4. 地域文化・地域スポーツの振興
1. 文化活動の推進
文化活動の支援
文化交流イベントの開催

2. 文化財の保護
文化財の保護と伝承
文化財のPR

3. スポーツ活動の推進
スポーツ活動の支援
スポーツ交流大会の開催
スポーツ合宿村の活用

第6 島人は自治人

1. 地域自治活動の充実
1. 活動拠点の整備
地域たまり場の開設

2. 地域活動の支援
地域住民活動の支援

3. 地域防災体制の整備
自主防災組織の結成
地域防災ブックの作成

2. 男女共同参画
1. 男女共同参画の推進
男女共同参画行動計画の策定
行動計画の実施

3. 行財政改革
1. 行政改革
行政組織の改革
職員的能力向上
行政評価制度導入検討調査
公共施設管理運営計画策定

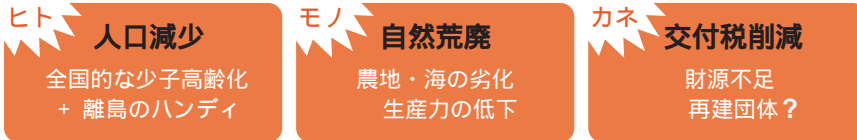
2. 財政改革
財政健全化長期構想策定

4. 国・県への要望
1. 国・県への支援要望
上島架橋

いま、何をしたらいいの？

危機に目覚めよう！

上島に迫り来る3つの危機



危機脱出の方法は...

危険な症状を自覚し、改革の処方箋を創り、島の個性を活かして、元気島プロジェクトを実行！

病気から脱出

甘えの三大疾患から脱けだそう

放置すれば、
体力が弱って、
死に至る！

- 1 “ 離島だから、
庇護されて当然...”
補助金中毒症！
- 2 “ よそがやったから、
うちも...”
横並び肥満症！
- 3 “ 何もそこまで
しなくても...”
慢性ゆでガエル症！

島の個性を活かす

弓削 漁業 環境保全 商船高専	岩城 青いレモン(農業) 交流産業 造船業	生名 スポーツ施設 イベント 農産物加工	魚島 漁業 小さな島 転入者の島
---------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------

基本方針を立てる

ふるさと産業を創る 収入の道を増やす 身近な雇用を生み出す 地産地“商”をめざす	定住人口を増やす 子育てしやすい島にする 移住しやすい島にする 結婚しやすい島にする	交流人口を増やす 魅力ある島をつくる 外来者を受け入れる 交流ビジネスを興す
--	--	--

元気島プロジェクト

1 元気島 さくら祭り 結束のため町全体で取り組むイベントの開催	2 元気島 百人委員会 行政評価とまちづくり提案を行う町民委員会	3 株式会社 「元気島」 起業と雇用創出のための地域会社の設立	4 上島ツーリズム 協会 交流ビジネス振興のための機関の発足	5 住みたい人 誘致 町を支える定住者を増やす
--	--	---	--	---------------------------------------

住んでよし 来てよし 元気島



発行 上島町役場

〒794-2592 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削210番地 TEL.0897-77-2500 FAX.0897-77-4011

編集 地域総合研究所(CSK)